

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2016年6月[第75号]



活動の方向性 地域保健ボランティア(CHW)の活動の活性化に向けて 永岡 宏昌
ナイロビ便り 2017年、総選挙に向けて 永岡 宏昌
ひと

インターンを終えて 花井 香奈子/松岡 由真/本田 敏一/吉澤 宗真
ケニア人スタッフ10人のプロフィール イラスト 花井 香奈子/文 花井、松岡 由真
理事・日本人スタッフ(日本/ケニア)・現インターンの名前一覧

国内 2016年度年次総会報告

事務局から

写真: ケニア共和国マシंगा県。教室の構造補修を行なっている小学校で。

地域保健ボランティア(CHW)の活動の活性化に向けて

代表理事 永岡 宏昌

2013年10月から、マシंगा県で初めて取り組んだ地域保健ボランティア(CHW)の育成も、2年半が経過し、積極的に活動できる期間は残すところ1年半程度になりました。これまで、4地域保健ユニット(CHU)でCHW研修を終了し、1CHUで研修準備が終了し、2CHUで形成にむけた地域リーダーとの話し合いが始まるどころです。

当初の活動で重点を置いたのは、それぞれの村の住民に、CHWの地域での活動でみんなの健康状態が改善され、そしてCHWは副次的な利益は期待できないボランティアだと理解してもらうこと。その上で、住民自らが村の代表であるCHW候補を選ぶことでした。その結果、選ばれた多くのCHW候補が育成研修に熱心に参加しました。これにより、対象地域のほとんどの村で、子どもの健康を保障する保健の知識や技能を持ち、診療所と連携できる人材であるCHWが生活している状況ができました。

次の課題は、CHWが村の保健リーダーとして住民に認知され、協働して日常的な保健活動が持続する状況を整えることです。CHWから住民への健康に関する情報提供や助言によって、住民自身や子どもの健康状態の改善や病気の予防につながっている

実感を多く積み重ねていくことにより、住民がCHWを本当に信頼するようになり、保健活動の持続性につながると考えます。しかし、現在のところ、村で保健リーダーとして自律的に取り組んでいるCHWは、ごく一部のようで、大多数は保健情報を伝える自信や技能が十分になかったり、住民が未だ信頼していなかったり、という状況にあるようです。今後、当会は多くのCHWの活動が活性化し、住民の認知がすすむよう協力していきます。追加的な保健知識の研修、その知識を住民に伝えるための教授法研修、村でのCHWによる学習会の開催の促進と当会スタッフ・専門家による観察と助言に取り組んでいくことを考えています。現在、エイズ教育で、この一連の流れを実践していますが、子どもの権利と保護、早期性交渉予防、乾燥野菜作りと栄養改善なども考えられます。

また、別の側面として、CHWの活動を促進する保健局の担当スタッフは、CHWが村の保健情報を診療所に持ってくることや診療所の清掃など補助作業をすることばかりに関心をもっているようにみえます。スタッフが、CHWの村での日常の保健活動に関心を持ち、適切な助言をするように意識の改善を図ることも、当会の重要な貢献と考えます。

ナイロビ便り

2017年の総選挙に向けて

永岡 宏昌

ケニアの総選挙が近づいてきました。2010年に発布した現行憲法では、総選挙の投票日を「前総選挙から5年目の8月2日火曜日」と規定していて、前回は2013年3月4日なので、次は2017年8月8日となります。2016年2月15日から3月15日まで、全国一斉の選挙人登録が実施されました。当会の活動地でも、2013年総選挙の選挙人登録の時に導入された横断幕、指紋読み取り機、カメラ、コンピュータが、村の市場に設置され、登録が行なわれていました。

投票できるのは、18歳以上で国民証明証*がケニア旅券を持つケニア国民で、かつ、選挙人登録を完了した人です。前回、コンピュータ・生体認証による登録に移行して、過去の選挙人登録は無効で、新たな登録となりました。今回の登録は、前回しなかった人と、新たに選挙年齢に達した有権者です。選挙管理委員会**によると、2015年12月末現在、推計有権者は2285万人で、うち登録選挙人は1455万人、未登録者は830万人。今回、415万人の一斉登録を目指したのですが、143万人に留まりました。登録した人は1598万人で推計有権者の70%となります。

この選挙管理委員会による2013年総選挙からの数々の失敗や汚職行為の疑惑から、

野党は批判を強めています。ナイロビと多くの地方都市で、野党リーダーや議員たちが支援者を動員した公道デモを繰り返してきました。5月23日には各地で参加者と警察との対立が発生し、複数の場所で警察の銃撃による死亡者や負傷者も出る事態となりました。国会議員から、特定の民族グループを地方都市から排除する発言、野党リーダーの暗殺発言など「ヘイトスピーチ」も始まり、2007年選挙後暴力を想起させる展開となっています。選挙後暴力では、国際調停で解決していく中で、1992年選挙以来、選挙に関わる暴力的犯罪が不問にされてきた「不罰則の文化」が指摘され、その克服が求められてきました。しかし、結局、国際刑事裁判所に起訴されていた現職の大統領と副大統領の公判が、証人がいなくなることで、公訴取り下げや無効審理となり、克服できないまま、2017年総選挙に向かっています。今後、ケニア社会が緊張を高めていくことが予想されます。なお、憲法の規定はありますが、2017年8月8日に投票が行われるのか、それ以降の日程になるのか、不透明な状況にあると思われる。

* National Identity Card (ID)

** Independent Electoral and Boundaries Commission (IEBC)

ひと インターンを終えて

事業に夢中だった 300 日

花井 香奈子

2015年3月に渡った初めてのアフリカ。アフリカどころか国際協力も初めてだった私が滞在を延長してまで約10か月間、寝ても覚めても事業のことに夢中になれた理由。1つ目は施設拡充・環境事業にハマったこと。特に難航した環境活動では、毎週会議を開きウンウンうなってトライして失敗して、それでもうなった結果、最後に保護者とスクマの成長した姿を見た時は、涙が出るほど感動した。そんなやりがいがたくさんあった。2つ目は責任ある仕事を任せてもらえたこと。経験ぜ

口からトップギアで走り続ける環境は短期間で自分を成長させ、「自分の限界」は意外とないことに気づかせてくれた。3つ目は人。日本人、ケニア人皆に支えられ、10か月間よく考えよく笑いよく食べた。改めて振り返ると夢中になって事業と向き合った300日に現在の自分の原点が作られたことに気づく。

帰国して5か月。ようやくケニアロスから抜け出せたが、油断をすると日々の生活に埋もれそうになる。そんな時は常にこの原点に戻って自分を鼓舞させていきたいと思う。

もっと学ぶべきことがあるのではないかと考えてインターン期間を延長

松岡 由真

2015年4月から大学を休学し、11か月間インターンとして保健活動を担当しました。最初の半年間はスタッフの方や先輩インターンに頼ることが多く、自分の未熟さ、考えの至らなさを痛感することの多い日々でした。そして予定のインターン期間が終わりに近づいたとき、このように貴重な環境の中で自分をもっと学ぶべきことがあるのではないかと、今帰ったら後悔するに違いない、と考えました。このことを代表に相談したところ、インターン

期間延長をご承諾いただき、またそれまで担当していた幼稚園活動だけでなく保健分野全体の活動に関わらせていただくことができました。後半は携わる活動が増えたことでさまざまな問題にぶつかったり、やるべきこと・考えるべきことに追われたりする日々となりましたが、その分多くのことを経験し、学ぶことができましたと考えています。私は CanDo で得た経験をもとに、今後も国際協力を携わっていくことを考えています。

現地でしか学べない事

本田 敏一

私は2015年の8月から6か月間、地域保健の担当をし、事業対象地となっている各村から地域保健ボランティア(CHW)の選考、研修に携わりました。短い間ではありましたが、CanDoの活動、コミュニティの人々、現地スタッフから学ぶ事はたくさんありました。

まず、CanDoの活動では日本人スタッフが中心となるのではなく、実際に現場を動かすのは現地の人々であり、現地スタッフや地域の人々と協力し、どのように活動を進めていくのか、実践にて学ぶ事が出来ました。

CHW選考の過程では、多くの困難にもぶ

つかりましたが、現地スタッフが自らの経験を基に意見を出して、共に試行錯誤をし、選考を終えました。研修では、雨季であり毎日のように激しい雨が降っていたにも関わらず、選考された村人が会場に足を運び、自分たちの村の健康問題改善のために熱心に勉強をする姿に頭が上がらない思いで、いつも元気・勇気もらっていました。

自分の「価値観」「常識」を考えさせられる貴重な機会となりました。この機会を糧とし、今後どのような形であれ、地域開発の分野で貢献できるよう頑張りたいと思います。

技術移転や保護者のマネジメント能力の向上といった目標に向かい努力

吉澤 宗真

私は2015年9月からの半年間インターンとして、教室建設・補修、環境保全活動を担当しました。

活動を通じて、CanDoでの業務は、毎日何かしらのトラブルが起きその対応に追われるといった日々でした。例えば、教室建設・補修の活動では、保護者の参加率が低く活動が延期になる。供与したものが紛失するなど。本当にさまざまなトラブルが起きました。

そんな中活動を通じて、技術移転や保護者のマネジメント能力の向上といった目標に

向かい努力をしてきました。

教室が完成し保護者には喜ばれましたが、実際に技術移転ができたか、また、マネジメント能力がという点は時間をかけ見ていく必要があると感じました。加えて、人の習慣を変え能力を向上させることの難しさを感じました。

最後になりましたが、私にこのような学ぶ機会を与えてくださり感謝します。日本人スタッフやケニア人スタッフには、温かく迎えられるさまざまなことを直接教えていただきありがとうございました。

国内 2016 年度年次総会の報告

3月27日、不忍通りふれあい館で2016年度年次総会を開催。一般会員40人(うち書面表決14人、表決委任15人)が出席し、定足数(一般会員57人の3分の1以上)を満たして成立。加藤明彦さんが議長を務め審議を行いました。

<第1号議案 2015年度活動報告・会計報告>が承認されました。

<第2号議案 役員改選>で理事7人、監事2人、準理事5人を選出(右の段参照。任期は2016年4月1日~2018年3月31日の2年間。終了後の理事会で代表理事に永岡を選出)。

<第3号議案 定款変更>では、改正特定非営利活動法人法(NPO法)(2012年施行)に伴うという理由が説明され、次のように条の削除、変更が可決されました。

削除: 第2章 会員(抛出品の不返還)第12条、第6章 会計(予備費)第47条
用語・表現の変更: 第4章 会議(総会の機能)第22条、第5章 資産(構成)第39条、第6章 会計(事業計画及び予算)第45条、同(暫定予算)第46条、同(事業報告及び決算)第49条。

<第4号議案 2016年度活動計画・予算>が承認されました。

お詫び(1)と訂正

会報74号の以下の箇所をお詫びして訂正します。
p.6(教員ストライキ:)8月31日から(…開始)。10月4日(終了した)。

p.11(年次総会に追加)定款を修正/(スタッフケニアに追加)ボランティア:松井恭子(5~9月)/
(支援および事業委託元機関・団体に追加)草の根・人間の安全保障無償資金協力に係る本邦NGOによるフォローアップ事業、TechSoup

ひと 役員

日本人スタッフ(日本/ケニア)
現インターン

■役員

- ◇代表理事: 永岡 宏昌 (再任)
- ◇理事: 井本 佐保里 (新任)、
國枝 美佳、佐久間 典子、
中沢 和男、藤目 春子、
明城 徹也 (以上、再任)
- ◇監事: 加藤 志保、國枝 信宏
(以上、再任)
- ◇準理事: 久保内 祥郎、竹 直樹、
中塚 史行、橋場 美奈、
満井 綾子 (以上、再任)

■事務局スタッフ

- 代表理事: 永岡 宏昌
- 事務局長: 佐久間 典子 (非常勤)
- 事務局員: 今村 純子

■スタッフケニア

- 調整員: 岩崎 敏実
- 調整員: 橋場 美奈 (非常勤)

■現インターン

- 西村 香保、足立 幸、宇野 由起信、
釜坂 聖

お詫び(2)

目次ではタイトルが「役員」ではなく、「理事」のみになっていることをお詫びします。

ひと

ケニア人スタッフ 10 人のプロフィール

イラスト 花井 香奈子/文 花井 香奈子(施設拡充・環境活動)、松岡 由真(保健)

◇施設拡充・環境活動担当

カンダリ・ムロンジア…調整員。他は調整員助手



コミュニティ、スタッフからの信頼が厚い、お父さんの存在。

フレドリック・ザンギ

チームの「次男」。記憶力、文章力に優れ、事務方のプレーンとしても活躍。



ニコラス・キョコ



「長男」は環境のエース。大人な面と三枚目キャラの大きなギャップが魅力。

ジョン・キトゥク

「三男坊」。どんな時も不満を口にせず、毎日奮闘する成長株。長い手足は羨望的。



フェイス・ムモ



皆の妹的存在。力仕事も文句を言わず、何事も楽しめる明るい性格に周りが助けられる。

◇保健担当

グレース・ティタス



保健チーム最年長。多くを語らずあまり表情にも出さないクールな性格。

エスタ・ンドウ

チーム内では一番キャリアが長い。自分の子どもの話をよく聞かせてくれる。



ジャンネット・マカウ



小柄で細身な外見とは裏腹によく食べ、おいしい食堂をよく知っている。

エドナ・ムウィカリ

さまざまなことに気がつくしっかり者。若手ながら自分の意見を臆せず主張する。



ジュリエティー・サミュエル



スタイルが良いお洒落さん。最年少で大人しいが、仕事はきちんとやる。

事務局から

報告

◇支援

○3月4日、在ケニア日本大使と日本NGO連携無償「マシंगा準郡*子どもの健康と安全を保障する学校地域社会の改善事業」(3年事業の第2年次)(2016年3月5日～2017年3月4日。供与限度額:31万3193米ドル)を締結。
*会報では「県」を使用しています。

○4月1日、(独行)国際協力機構(JICA)と草の根技術協力事業パートナー型として「ケニア共和国マチャコス地方マシंगा県マシंगा郡キバー区・マシंगा区での住民への基礎教育を通じた参加型子どもの健康・教育保障事業*」の業務委託契約を締結(2016年4月1日～2017年9月30日。2136万9960円)。*1回目は2013年10月1日～2016年3月31日。

◇組織

○3月27日、2016年度第1回理事会を開催。2016年度年次総会にかける議案を承認。

○3月27日、不忍通りふれあい館で2016年度年次総会を開催(p.6参照)。

◇国内活動

○5月11日から、CanDo勉強会2016・東京<全6回>を文京区民センターで永岡宏昌(代表理事兼事業責任者)を講師として開催。

人の動き

○2月29日、インターン 吉澤宗真が研修期間を終了して、ケニアを出国。

○3月7日、釜坂聖(かまさか ひじり)をインターンとしてケニアに派遣。

○3月16日、インターン松岡由真が11か月の研修期間(5か月延長)を終了して、ケニアから帰国。

○3月25日、永岡がケニア出張(1月31日～)から帰国。

○4月27日～5月8日、永岡がケニア出張。

○6月7日～13日、永岡がケニア出張。

○6月12日、橋場美奈を調整員(非常勤)としてケニアに派遣。

■次号は、2016年9月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第75号]

2016年6月27日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話/FAX: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会